

牛久：学校周辺に見る自然

第6号 ひたち野みずべ公園（ひたち野うしく小）

2019年4月28日発行

＜ みずべ公園で、春の生きもの観察。～③花に来る虫 ＞

4月15日、16日、ひたち野うしく小4年生とのみずべ公園春の生きもの観察。今回は、花に蜜みつや花粉かふんを求めてやってくる虫たちです。



タンポポの蜜みつを吸うハチたち。ミツバチや、もっと小さなハチが多い。



タンポポの蜜みつを吸うモンキチョウ雄おす(左)と、雌めす(右)。



タンポポやブタナには、いつもいろいろなハチやチョウがやってきて、蜜みつを吸っています。この日のチョウは、モンキチョウとベニシジミが多かったですね。蜜みつがたくさんあるのでしょうか？日ざしがあつて暖あたたかい日には、特に種類も数も多いように見えます。花の種類や天候てんこう、気温、時間との関係など、調べてみるとおもしろいかもしれません。

タンポポの蜜みつを吸うベニシジミ。



オオジシバリの蜜を吸うハチ（左上）とベニシジミ（右）。
花粉をなめるホソヒメヒラタアブ（左下）。



またタンポポ？ いえ、これはオオジシバリ。
やはり、小さなハチやベニシジミが来ていました。
1 cmにも満たない、小さなホソヒメヒラタアブも、
花粉をなめていました。もようはハチによく似てい
ますが、ハエに近いなかまでしたね。見分け方、お
ぼえていますか？



オオイヌノフグリの蜜をなめる、ナミホシヒラタアブのめす（左）とおす（みぎ）。



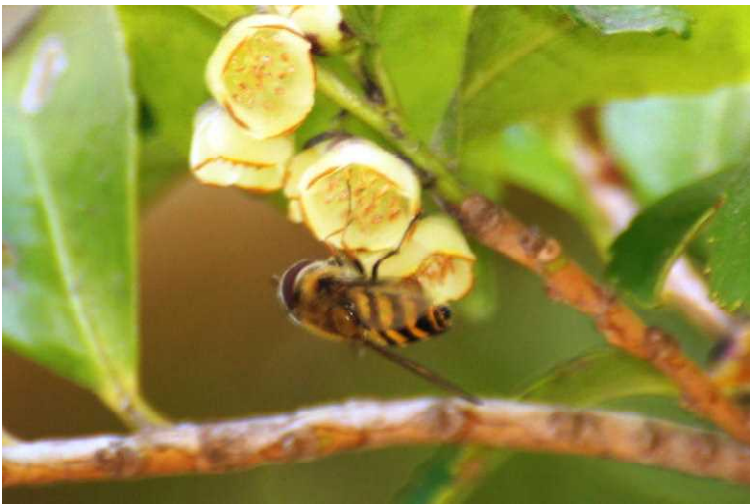
オオイヌノフグリにも、ハナアブのなか
まが来ていました。ホソヒメヒラタアブよりは
だいぶ大きい、ナミホシヒラタアブです。
近くにおすとめす、両方がいました。ハナアブ
のなかまの口先はべたっと広がっていて、ハチ
やチョウのような「吸う口」ではなく、「なめ
る口」ですね。

左は、カラスノエンドウ。豆の花にはよ
くハチが来ますが、カラスノエンドウの花のつ
け根のあたりには黒いシミのようなものがあ
り、ここからも蜜を出しています。じっくり観
察していると、アリやハナアブのなかまが来
ていることがありますよ。

カラスノエンドウの花のつけ根の蜜を吸うアリ。



ユキヤナギの花には、パッと見るとミツバチかと思うような、ちょっと大きめのハナアブが来ていました。アシブトハナアブです。複眼（ふくがん）が大きく触角（しよっかく）が短い、羽（はね）が2枚などから、ハチではなくハエに近いなかまであることが分かります。ユキヤナギは、まだハチの活動が活発にならないころから咲き出していますが、日ざしがあるとハナアブのなかまがたくさん来ています。**ユキヤナギの花粉^{かふん}をなめるアシブトハナアブ。**



ヒサカキの雄花（おぼな）にも、ハナアブのなかまが来ていました。花粉（かふん）をなめていましたが、下向きに咲くのでとまりにくいのか、ちょっとなめたらすぐに行ってしまいました。下向きか上向きか、平たいかつつ形かなど、花の形や色、大きさなどによって、来る虫に違い^{ちが}があるかなど、これも興味があります。**ヒサカキの花粉^{かふん}をなめるヒラタアブのなかま。**



花にとまっている写真^{しゃしん}は撮れませんでした。ヤマトシジミが咲き始めたシロツメクサに来ていました。似たルリシジミとは、複眼（ふくがん）の色や羽のもようで見分けられ、ルリシジミの複眼^{ふくがん}は黒ですが、ヤマトシジミでは灰色です。写真は、落ちていたさくらの花びらにとまったところを撮りました。**シロツメクサの蜜^{みつ}を吸っていたヤマトシジミ。**



ムラサキツメクサはまだ咲いていませんでしたが、葉にヤブキリの幼虫^{ようちゆう}がいました。ヤブにすむキリギリスのなかまで、成虫^{せいちゆう}はほかの昆虫^{こんちゆう}をつかまえて食べる肉食^{にくしよく}ですが、幼虫^{ようちゆう}は花粉^{かふん}や葉を食べます。成長するにつれて、だんだんと肉食^{にくしよく}に変わっていくそうです。

【理科支援員：宮内】

ムラサキツメクサの葉^はにいたヤブキリの幼虫^{ようちゆう}。